

## 田園路線と観光路線の 色彩ガイドライン

3-3-1 田園路線について  
自然地、田園の背景を主体にした開放的な沿道  
を田園路線と呼びます。

3-3-3 観光路線について  
観光地区の中心又はそのアプローチとなる沿道  
を観光路線と呼びます。

3-3-2 田園路線の景観形成イメージ  
自然と共存した全体のもとまりを重視した空間  
—開放感、自然美  
沿道の緑や自然景観が身近に感じられ、自然に  
とけ込んだまちなみが求められます。  
田園路線では、広がりのある田畑、美しくすがすが  
しい緑を損なうことがないように、沿道景観  
の保全を図っていきます。  
道路から山のスカイライン、海への眺望といっ  
た特徴ある視界を遮ることを最小限に抑え、自  
然に調和した沿道景観をつくっていきます。

3-3-4 観光路線の景観形成イメージ  
自然にとけ込み原風景を残した空間  
—身近な美しい自然  
観光地は、魅力ある風景、施設を有する地区です  
から、これらが醸し出す地域イメージを育てて  
いくことが求められます。  
観光路線では、風光明媚な自然景観を背景とし  
た道路空間の美観を守っていくことが必要にな  
ります。  
雄大な眺望、風景によって多くの人々に感動を  
与え、県民が誇りを感じることでできるよう、人  
工的要素は極力抑えていきます。

### 3-3-5 田園路線と観光路線の建築物等の色彩ガイドライン

自然に近い場所では自然に近い色彩を採ほう  
田園路線と観光路線では、沿道の魅力ある風景  
や施設のイメージを損なうことのないよう、そ  
れらの色彩よりも彩度の低い色彩を用いたり、  
対比の少ない似かよった色彩を用いるなど、鎮  
静的な色使いを行うことが必要です。  
色彩ガイドラインによって、明清色、暗清色、鮮  
明色を基調色として使用することはできなくな  
り、全体的には、元からそこにあった自然そのま  
まの姿の中に、建築物や工作物等がとけ込んで  
いくような色彩を基調とした色彩景観を目指す  
こととなります。


広告物は数や面積を控え、  
必要な情報だけを伝えるようにしよう  
広告物には色味の強い鮮明色が用いられること  
が多いことから、場合によっては、建築物以上に  
自然の風景を損なうことになりかねません。  
田園路線や観光路線では、色彩を考える前に、そ  
の広告物が本来に必要なかどうかを考え、数や面  
積を必要最小限に止めるようにしましょう。  
広告物を設置する際には、基調色の鮮やかさを抑  
え、文字要素だけに明るい色や鮮やかな色を用い  
るなどの工夫によって、風景を損なうことなく、  
必要な情報を伝えるように工夫しましょう。

※1—表面に着色を施してい  
ない木材や土壁、金属板、ス  
レート、ガラスなどの素材色  
は、この色彩ガイドラインの  
適用を除外します。

※2—各トーンの色彩の範囲  
は、19ページの一覧表を参照  
してください。

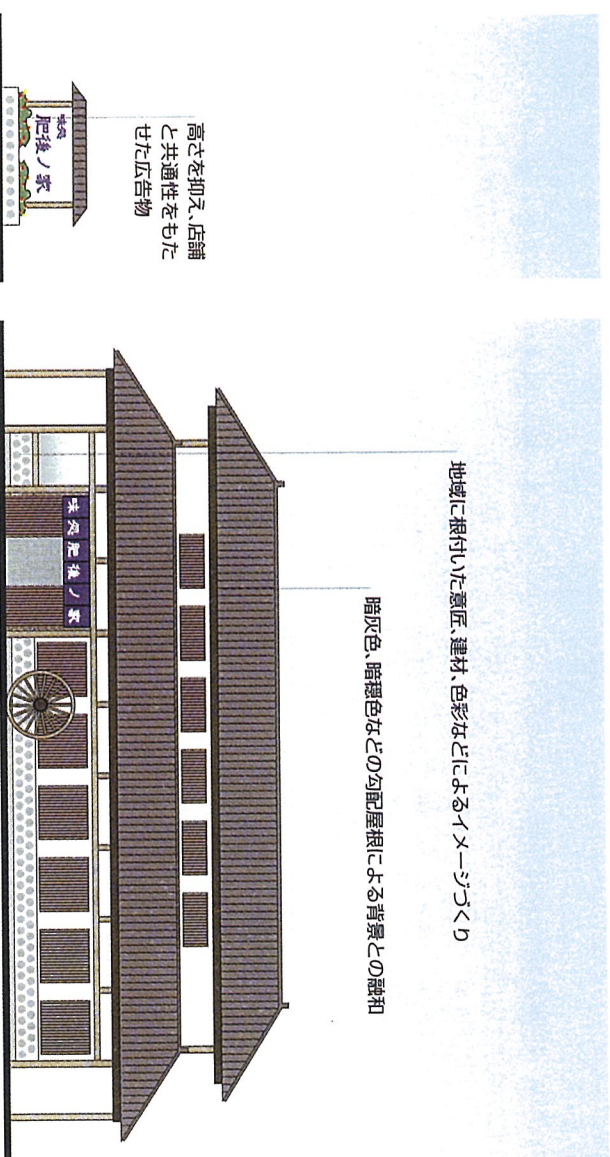
※3—各路線の推薦トーンは  
58ページを参照してください。

■表 田園路線と観光路線の建築物等の色彩ガイドライン

路線	色彩ガイドライン	選ばれた方がよいトーン(●)
田園 観光	次の色彩を外壁の基調色とすることは避けること。 R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)系の色相—彩度を超える色彩 その他の色相—彩度1を超えない色彩	鮮明色 

## 田園路線と観光路線の 対象別色彩設計例

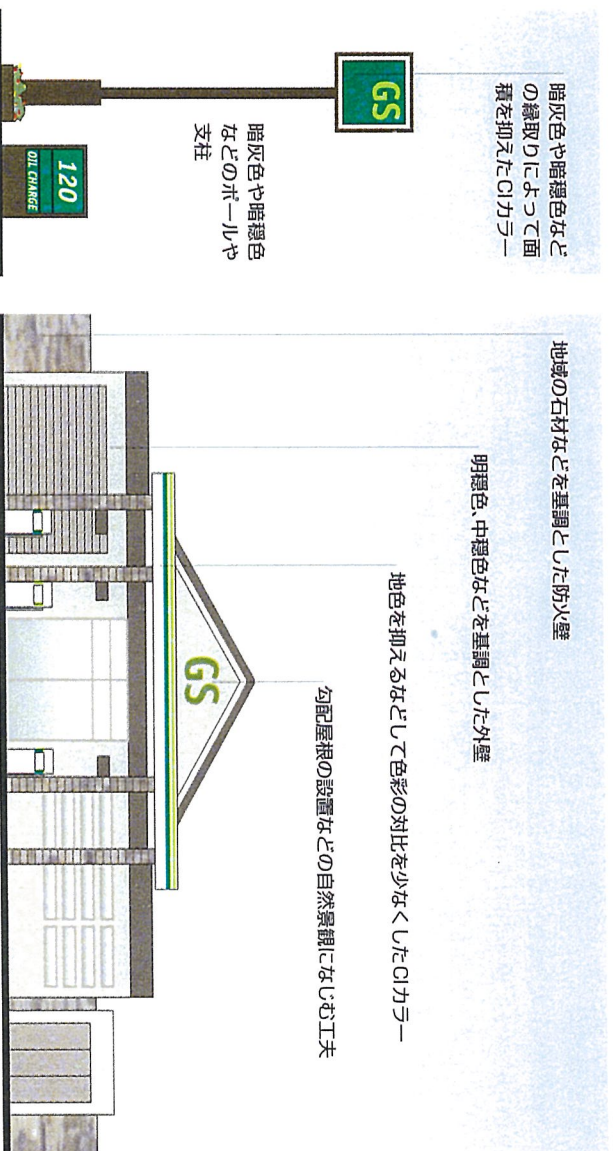
田園・観光路線沿い飲食施設は、観光の対象となっている自然や施設のイメージを損なわないような色彩とします。地域に伝わる建材やそれを組み合わせた配色などを用いて積極的に地域性をアピールすることも重要です。また、景勝地の景観を広告物が塞いでしまうことがないように、大規模な広告物の掲出は避け、ドライブの視線レベルに店舗と共通性のある背の低い広告物を設置するようにします。



- 建物基調色—  
広告塔基調色—  
25-80A(5Y8/0.5)
- 屋根色—  
22-40D(2.5Y4/2)
- 補助色1(柱)—  
22-50D(2.5Y5/2)
- 補助色2(なまこ壁)—  
N-90(N9.0)
- 補助色3(なまこ壁)—  
N-55(N5.0)
- アクセント色—  
72-30H(2.5PB3/4)

■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—飲食施設

田園・観光路線沿いのガソリンスタンドは、観光の対象となっている自然景観や施設などとの対比の少ない色彩を基調とし、デザインも周囲の景観になじみやすいものとします。キャンピーに勾配屋根をつけたり、柱や防火壁などにタイルや石材などを貼り、より自然な外観になるよう工夫している例も見られます。こうした材料に、地域特産の石材などを用いることも考えられます。塔状の広告物は、暗緑色の縦線をつけるなどして、CIカラーの強い色彩が入る面積を抑え、料金表示などの情報は集約化し、のほりなどの掲出を避けるようにします。

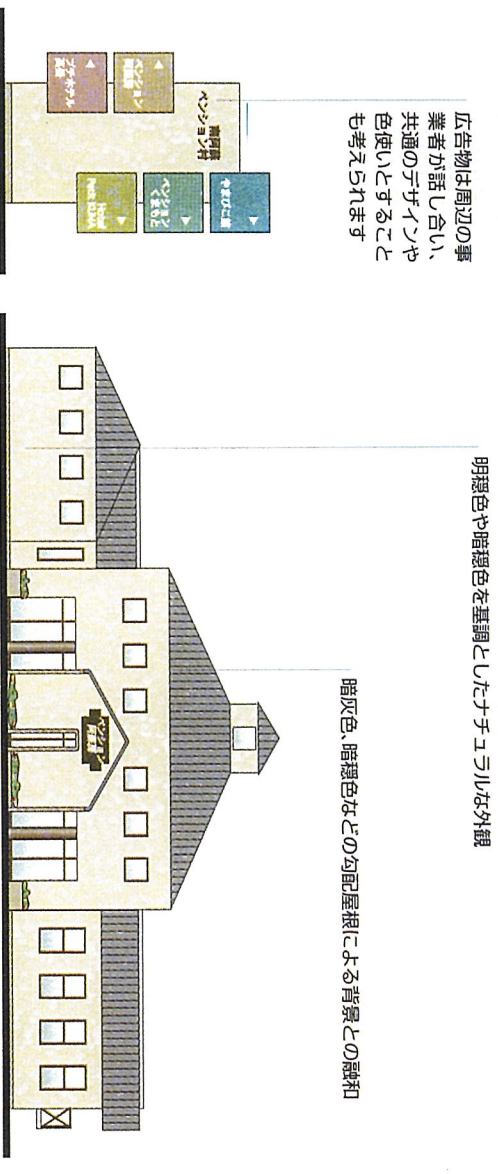
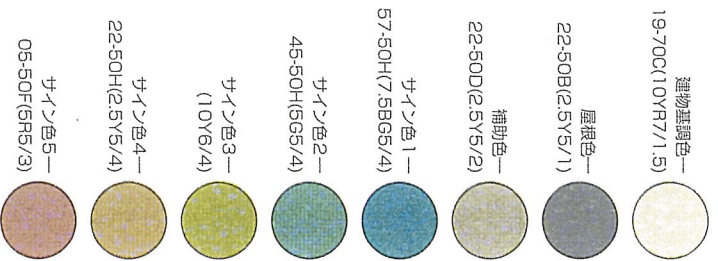


- 建物基調色—  
19-80A(10YR8/0.5)
- 屋根色—  
(10YR4/1)
- 補助色1(防火壁)—  
(2.5Y5/1)ほか
- 補助色2—  
N-90(N9.0)
- アクセント色1—  
45-50T(5G6/10)
- アクセント色2—  
37-60T(7.5GY6/10)
- 広告塔基調色—  
(10YR2.5/1)

■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—ガソリンスタンド

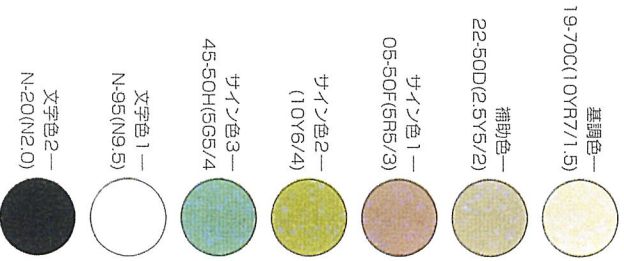
田園・観光路線沿いには、多くの旅館やペンションなどの宿泊施設が集積しています。個々の施設の色彩は他の施設と同様に、明穏色や中穏色などを基調とし、観光の対象となっている優れた景観を妨げないように配慮します。

旅館やペンションが集積している旅館街やペンション街などでは、個々の施設の色彩ばかりでなく、周辺の宿泊施設の事業者が協定を結ぶなどして、類似色を基調としたり、色相やトーンをそろえたりすることによって、質の高い観光拠点としてのイメージづくりを進めていくことも考えられます。



田園路線と観光路線の色彩設計例—旅館・ペンション等

田園・観光路線沿いには、自家用広告を除いて、必要性の低い広告物は掲出しないようにすることが基本といえます。現状では、個々の施設や自治体で作成した広告物が無秩序に設置されている例も少なくありませんが、こうした広告物は、必要性の有無を精査し、必要なものは集約化するなどして、景観の妨げにならないように配慮します。また、必要なくなった広告物は速やかに撤去し、同じ場所に複数の大きな色や色使いのサインが混在して、混乱を招くことがないように注意します。



田園路線と観光路線の色彩設計例—広告塔・広告板

## 特定施設届出地区の色彩の考え方と 推薦基調色

路線別、対象別の色彩設計例でも示したとおり、特定施設届出地区の建物の基調色は、無彩色や明穏色、中穏色、暗穏色などが基本です。しかし、一つひとつの建物の色彩は、周辺環境を考慮して設計していく必要があります。ここでは、色彩設計を進める際にその拠り所となる周辺の景観と、それにふさわしい基調色の考え方を整理します。

※各トーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照して下さい。

### 3-6-1 都市サービエ路線と都市近郊路線

都市部の路線では、建築物や工作物をはじめ、さまざまな景観要素が混在しています。

これらの色彩に秩序をもたせ、連続性のあるまちなみを形成していくことが、都市部の路線に建つ建物の色彩の課題といえます。

都市部では、両隣の建物の色彩を意識し、その中間にある色彩を用いることも、連続性をつくるひとつの手法になります。

いずれにしても、現状でもより使われていない暗すぎる色彩や鮮やかな色彩は避け、穏やかな低彩度色を基調とすることが基本です。

### 3-6-2 田園路線と観光路線

田園路線や観光路線では周辺の自然に脅威を与えないように、周囲の自然と同化するような基調色を選択することが基本です。

#### ● 山間部

山間部の樹林や山はだが背景となる景観では、無彩色や低彩度色が基本ですが、明度が高くなりすぎると、やや暗く、落ちついた色調が主体の山の風景から突出してしまいます。

深い緑の中では、建物の基調色として多く用いられている白なども、対比的な色彩のひとつに挙げられます。

山間部の建物は、背景である樹林や山はだに近い、中穏色や暗穏色を基調とすることをおすすめします。

#### ● 海浜部

海浜部の明るい空や海が背景となる景観では、無彩色や低彩度色が基本であることにかわりはありませんが、山間部よりやや明るめの色彩を基調とするのが自然といえます。

逆に海浜部では暗い色彩が開放的な景観を遮断する要因にもなりかねません。海浜部の建物は、明るく開放感のある白や明灰色、明穏色などを基調とすることをおすすめします。

隣接する建物の中間の色相を使って連続性をもたせる

05-80B(6F8/1)	15-80B(5YR8/1)	25-80B(5Y8/1)
---------------	----------------	---------------

隣接する建物の中間のトーンを使って連続性をもたせる

22-90B(2.5Y9/1)	22-70D(2.5Y7/2)	22-50F(2.5Y5/3)
-----------------	-----------------	-----------------

推薦トーン(O)

白、明灰色、  
明穏色、中穏色

図 都市サービエ路線と都市近郊路線の建物の色彩の考え方と推薦トーン

山間部の建物の推薦基調色

やや暗めの程やかな色

● 中灰色	N-70(N7.0)	N-60(N6.0)
● 暗灰色	N-50(N5.0)	N-40(N4.0)
● 中穏色	09-60B(10R6/1)	15-60F(5YR6/3)
● 暗穏色	10R4/2	15-40D(5YR4/2)
22-70B(2.5Y7/1)	22-60D(2.5Y6/2)	29-70B(10Y7/1)
19-40D(10YR4/2)	22-40D(2.5Y4/2)	29-40D(10Y4/2)

推薦トーン(O)

中灰色、暗灰色、  
中穏色、暗穏色

図 田園路線と観光路線(山間部)の建物の推薦トーンと推薦基調色

海浜部の建物の推薦基調色

明るく程やかな色

● 白	N-95(N9.5)	N-90(N9.0)
● 明灰色	N-85(N8.5)	N-80(N8.0)
● 明穏色	19-85B(10YR8.5/1)	22-85B(2.5Y8.5/1)
45-85B(5G8.5/1)	(5B68/0.5)	(5PB9/0.5)

推薦トーン(O)

白、明灰色、  
明穏色

図 田園路線と観光路線(海浜部)の建物の推薦トーンと推薦基調色